

－ 日本タウン誌・フリーペーパー大賞2017－ 大風印刷様(やまがたマーチング委員会)

全エントリー媒体の中から最も優れた媒体に与えられる大賞に、
大風印刷様が発行する「gatta!」が見事に受賞！

大賞





大賞



媒体コンセプト

生まれ育った街を、素直に好きって言える。

これって、素敵なことだと思いませんか？

ここ山形には、全国的かつ世界的に見て決してひけをとらない、稀有な文化や素晴らしい風土、類い稀なる才能を持った人物が数多く存在します。

しかし、実際ここで生活している方の多数はそのような優れた面を知らず、或いは知ろうとせず「山形＝田舎＝格好悪い」という短絡的な先入観から、山形という土地に対して否定的な見識を持っているという事実があることは否めません。誇りながらも消え去ろうとしている山形の文化や伝統を積極的に取り上げていくことはもちろん、普段の生活が大幅に変貌しないまでも、ほんの少し個々の山形を想う気持ちが変わり、もっとこの街が住みやすい場所となるため、親から子へ正しいことを伝えるために、そして何よりも“自分の故郷を誇りに思える”気持ちを育てることが「gatta!」最大のテーマです。

審査コメント

大きなスイカを美味しそうに頬張る2人の子ども。

夏らしくてインパクトのあるかわいい表紙に、審査員一同思わずニマリ。

「生まれた街を、素直に好きって言える。とても素敵なことだと思いませんか？」という編集コンセプトで13年前に創刊された。

この編集部からのメッセージ通り、地域の様々な魅力を、企画、写真、文章、デザイン等、高いクオリティで編集してある点が高く評価されての受賞。

この街に住んでいる読者にとっては、「わが街再発見」のきっかけとなり、観光客にとっては、ディープな観光情報満載の雑誌となっている。

誌面からWEBに動線はあるが、PDFになっており、知りたい情報が検索できないのが非常に残念な点である。13年分の「gatta!」を再編集すれば、山形の新しい魅力再発見のコンテンツになるだろうと思われる。



大賞

大地の多様性を感じさせる
海岸特有の岩や地層。

南北の植物が混生する
島特有の豊かな自然。

島に暮らす人々の暮らしは、
独特の風情と美しさ。
飛鳥は、日本海を南北に連
なる海道山脈の頂上と相違な
る。海火山から吹き出した
噴出物が海底に積み重なり、
押し上げられる波や津波に耐
えられて現在の島となった。そ
のため、多様な地形が作り出さ
れ、少し離れただけで岩場や
海岸線などの景観がガラリと
変わる。また、北緯39度という
高緯度に位置しながら、暖流・
対馬海流の影響を受けているた
め、年間平均気温は12度と暖
かく、南と北の動植物が生息

する特徴的な生態系を築いてい
る。その豊かな自然を口にする
ウミネコが絶滅に陥れ、飛鳥島
が羽を休めにも立ち止まり、多く
の太公望が訪れる絶景の釣りス
ポットにもなっている。

生活文化とともに
醸成されてきた島の歴史。
島には縄文時代前期からの
遺跡が存在し、江戸時代には
北前船の西回り航路として、
瀬戸内海や瀬戸内海と利用
され、海上交通による文化の
中継点として重要な役割を果
した。そうして海を生業とする
人々によって培われた島の



WHAT'S "TOBOSHIMA"

「飛鳥」は山形熱沖の
日本海に浮かぶ島

総面積は東京23区に
対して約2.75倍。島
面積は10.2km²で、徒歩で
約2時間10分を要す1
周である。島内には
約10の交通機関で
ある定期船「たけしま」
は、渡田～飛鳥間
約75分で結ぶ。

2.75
km²

39
km

島戸崎漁港を中心、島海山方面を
軸に、島の南には対馬海流の影響で、南北
の気候は最大約4℃の差で過剰な雨量・
風量にさらし、温暖な気候に、コブダイや
シラサギなどの魚類の棲息も多量。また、初
夏にかけて漁期に訪れるチヂメの群れも
観察でき、ダイバー達から人気を博している。

ふしぎの島、 飛鳥。

昨年、島海山飛鳥ジオパークとして
日本ジオパークに認定された。
今後さらなる展開が期待される飛鳥。
「学び」の視点から、その魅力に迫ります。

ABOUT "TOBOSHIMA"

漁業が盛んで釣り客も多い
山形県唯一の有人島

島の人口は
208人
2018年(2017年
9月30日現在)、
人口減少や高齢
化は顕在化が進
んでいるが、島の
観光客は約1万人
が訪れる。約1
千人がここで暮
らす。観光客は
観光客で訪れる
観光客で訪れる

生活文化もまた、島の景観も、
海の幸が豊富に獲れる「山形
県を代表する純漁村」といわれ
た島には三つの集落があり、港
のある藤浦地区から中村地区
を挟んで淡水地区まで、一本の
道が続いている。家々はその道
に沿って海に面して建ち並んで
おり、晴れた日には島海山を臨
める。飛鳥は島海山の山頂が
飛んでできたという伝説もある
が、古より島の小笠原神社と
島海山頂の大物忌神社で火
合わせの神事(両社で篝火を

燃やして)

海に生きる人々によって
培われてきた歴史と文化。



飛鳥の南側海岸には人と人が岩場で、海
道津身潮がは、マンネス岩やローソク岩
などの奇岩を並べしめる。

さらなる視点の広がりを
教えてくれる多様な島の
さて、「ふしぎの島」という
けれど、飛鳥の何となくは不
思議な魅力がある。

歴史、豊漁漁業を特徴とする神
事などが行われてきたように、信
頼の対面としても島海山の存
在は常にあった。このよう
に、大抵の島を保護しながら
自然に暮らすことができ、そ
に住民の生活や文化をこの
深い関わり合いも、丸ごと楽し
むことができる。それがジオパ
ークの魅力であり、飛鳥がその
認定を受けた理由でもある。



島の周囲には、海に変わってできた海食洞
や海岸段丘の広がり、古い地層や地層が
見られる場所もある。

WHAT'S "GEOPARK"

飛鳥も認定された
「ジオパーク」とは

「地球一大陸(ジオ)」「公衆
パーク」「土地の資源」を考
慮する。地球を学び、そこを
楽しむことができるジオパークのこと。

不思議な魅力がある。多
様な島の歴史や文化をこの
深い関わり合いも、丸ごと
楽しむことができる。それが
ジオパークの魅力であり、飛
鳥がその認定を受けた理由
でもある。

大賞

自然が作り出した造形は物語性あふれる見所。それを体感した先人は、様々な言い伝えを残しています。

飛鳥の見方が変わるかも？ 島に伝わるミステリー。

奥深き島、飛鳥に伝わるミステリーの数々。

数々の伝説が残り、語り継がれてきた飛鳥。その謎めいたストーリーと歴史を紐解くヒントになるのが、現在の島の造形。大地の活動が生み出した飛鳥の造形や、周囲の小さな島々に現れる地形や、周囲の環境が、その成り立ちだけでなく、「なぜそのように伝えられてきたのか」という物語の背景も知るべきである。

ストーリーには島の人々の生きざまも表れる。

自然の造りに神や霊的なものを寓出した「ストーリー」は、



海の隅にあって島と山は大きな岩は、飛鳥山と数珠、高島の中島を見て位置を確かめるとともに、海中航路の船乗りを導いた。

1 飛鳥と中村の地帯にはある洞窟(「第六穴」は、古くから神聖なところとされ「穴七人」とはいけなされ、近頃寺などが建ち建てられた。トンガが、昭和70年に地元の中学生在が穴の中で人骨を発見したことを機に、寺は急遽、中からは平安時代の人骨や土器が多数出土した。なぜそこに人がいて、隠れた原因など、諸説が多岐にわたり、科学的な調査がされている。



遺跡の入り口を掘り出した。[子次]の字には、上げすやみしと「第六穴」であることから、工口が掘られた。土器、金銅器(土器の土器)といった遺物も出土している。



築いて 守っていた？

2 島の南方、巨大な穴。穴口は、普通道と通道。中村地区が一望であるが、ここには洞窟の遺跡と、古代文字といわれる引掛き縄のようなるものが彫られた石版がある。これは、島に住む海賊が、この地に拠点を築いていたからではないかと言われている。



遺跡が海賊船に押寄せ、掘出した遺物が残ってそこに残された。書やい草紙が広がった。跡い草紙、の古い遺物は、種々に島に集った人の集った場所の境目である。



賽の河原の積み石は 崩しても 元に戻る？

3 ここはほとんどの大さきの上がた(賽の河原)は、島民は海軍に直営でない場所。内くから死者の魂が集まる所と知られている。積み石は崩しても元の賽の河原に元に戻るという。その理由については、



積み石のある場所は、島の海軍基地にたつ。この積み石は島民が墓園にある山とつながっている。かつて海軍基地で石がこまめに集められてきたと考えられる。

ない」といふ決まりを昔から忠実に守ってきたと、物語の随所からうかがい知ることができ、さるの、島の人の心、深さである。飛鳥には神村の村、飛鳥の寺あり、様々な祭りが受け継がれ、先人に紹介した「火おむせの神事」の他にも、例大祭や大漁祭、祭りの各々各地区とわたり、祭りと語りあうの海に生かす。大漁足は切実な祈りであり、そうした生きざまも、言い伝えに添えられているのだ。

先人が残した物語を、歩いて謎が解く楽しみ。

このように、飛鳥に創られる多様な造形、自然が作り出した造形、神聖と畏敬の源流しを向けた先人への、洞窟、海、山、岩、小島など、飛鳥には大地と人の物語が色濃く残され、今、生きている私たちの実感に体感することができ、知れば伝えたい面白さのある飛鳥は、多くの発見し、学びに満ちているのだ。本質では言い伝え以外の学びのスポットについて見てみたい。

女人禁制の 風習が残る、 龍の棲む穴がある？

4 「龍」は、島の西方約75キロメートルの島、製糖の内部には、黄金色の龍の跡の跡のような岩が見られる。島では古くから、海神である伊弉諾の住む聖域といわれ、島民や参詣者の悪い行いを止めるため、この神の化身は、その島の成分の化学変化によるものと推定したが、この島で不思議なことが起こったという話も昔から伝えている。



島には龍が住むといわれ、聖域(龍)の島の洞窟には、遠賀美神社の御神体である。御神体は御神体を島民から守るための造形(龍)。

島と本土を結んだ 橋が岩に？

5 西方沖に浮かぶ島「帽子島」には、大山が岩が崩れ、島と本土を結んだ橋が岩に崩れ落ちた。島の「柱状節理」が見られる。島の人が「柱状節理」と呼ぶこの島は、かつて後島を訪れた伝説大脚が、崩れ島を崩れ落ちた。島と本土の間にあった橋が崩れ、その橋が崩れ落ちたのだという。



「海神子守島」は大山(大脚)で崩れた島。伝説では、島民が崩れ落ちた橋を見つけた。崩れた橋は、崩れ落ちた人の心をつなぐ橋が崩れたという。